

1 研究主題

協働的に学び、自己の学びを実感する生徒の育成 — ICTの有効活用を通して—

2 研究の具体

(1) 主題設定について

昨年度はコロナ禍で十分な話し合い活動を行いにくい状況があり、「思考の可視化」をキーワードとして、板書に焦点化した授業改善を実施した。今年度は、これまでの「思考の可視化」を意識した板書の研究に加え、授業においてタブレットPCを有効活用することで、生徒の授業や学習内容に対する興味・関心が高まり、個に応じた指導の充実や協働的な学び、自己の成長を実感することにもつながるのではないかと考え、研究テーマを設定した。この研究を通して「授業は楽しいと思うか」の質問に対する肯定的回答が68%から75%に上昇することを目標値とする。

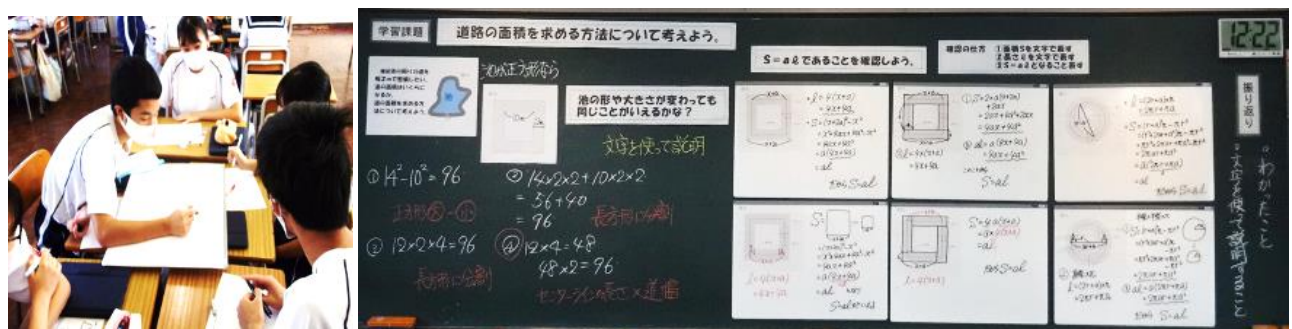
この研究において、タブレットPCの活用では、授業支援アプリやAIドリル等を活用するため、若年教員が力を発揮し、構造的な板書等不易な教育技術に関してはベテラン教員が教科を超えて指導する推進体制を整えることで、全教員が相互補完的に授業力向上を図ることを目的とした。

(2) 研究の実際

【ICT】思考ツールで学び合う 【板書】キーワードを示す



【ICT】解答の共有をする 【板書】解き方を話し合う



3 成果と課題

○ICTの有効活用と「思考の可視化」を図る構造的な板書を合わせることで、どのような活動を仕組み、何を板書に残すかを考えるようになり、課題解決のための活動が明確になった。そうすることで個々の意見を活かす場を授業の中で設けることができた。「授業は楽しいと思うか」の質問に肯定的に答える生徒が全校で5.0ポイント増加した。

▲個々の意見やグループでの意見をさらに問い返すなど、発問や問い返しの工夫をすることでさらに個を活かす研究が深まると考えられる。